

こどもボランティアつなぐ 活動を病院から地域へ



キーワード

ボランティア活動, こども, 地域貢献

○取り組んだきっかけ

2018年の創部以降、静岡県立こども病院の外來・病棟を中心として活動してきました。新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、病院における活動が行うことが出来ない時期がありましたが創部6年を迎えた2023年、徐々に病院での活動が再開され、部員数も戻りつつあったサークルに、新たなボランティア先として、先生より紹介していただいたのが「子ども発達支援 びび」さんで活動の場を病院から地域へと広げようと考えたのがきっかけです。

○活動の目的

病院中心の活動でしたが、健康科学部の理念である「地域の健康を支える」にも着目し、地域での活動も増やしていくため。また、病院を退院したこどもたちの地域における支援の場への理解、発達支援における看護師の役割への学びを深めることが目的になっています。

○具体的な内容

<ボランティア活動開始に向けて>

①活動するにあたっては、当クラブ「こどもボランティア つなぐ」に所属します。

②初回活動時には「子ども発達支援 びび」を運営している「特定非営利活動法人びゅあ」の施設長より創立の歴史やこどもの触れ合いについて説明を受けます。



<ボランティア活動>

- ①自らの活動希望日を先方に伝え、事前にスケジュール調整を行います。
- ②当日は施設へ向かい、職員の指示に従って利用しているこどもとの遊びや見守りを行います。

<実際の活動例>

- ・昼食時の見守り
- ・自由時間での遊び
(かるた・UNO・百人一首など)

ボランティアに参加した部員の中にはこども病院での交流があったこどもと、当施設にて再会できたケースもありました。

○期待される効果

大学で看護について学んでいく中、実習以外で疾患や障害を抱えながら生活しているこどもと関わる機会はなかなかありません。当クラブでのボランティア活動を通し、こどもへの関わりや支援体制について理解を深めることができます。

また、障害により、言葉では自分の思いを表現できないこどもとのコミュニケーション方法施設職員との関わりを見ながら信頼関係の築き方についても学ぶことができる貴重な機会となっています。

この機会を通して、人との関わり方や多職種の連携についても学ぶことができ、豊かな人間性をもつ看護師になれるような力を身につけていくことが可能になると考えています。



学生名 : 望月彩衣、徳山萌映
健康科学部看護学科3年
指導教員: 木田文子
健康科学部看護学科講師

連携先:

特定非営利活動法人 びゅあ
放課後デイサービス びび

こどもボランティアつなぐ 活動を病院から地域へ

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



キーワード

ボランティア活動, こども, 地域貢献

○取り組んだきっかけ

これまで、病院の中で過ごすこどもと関わるボランティア活動をしてきましたが、病院を退院し地域で暮らすこどもの様子を知る機会はありませんでした。新たなボランティア活動の場として紹介されたのがいこいの家でした。

いこいの家は、発達が気になり、運動・ことば・情緒などの支援が必要とされる就学前のこどもたちを預かっている施設です。今回は、地域で暮らすこどもたちの様子を学ぶことができると思い参加しました。

○活動の目的

健康科学部の理念である「地域の健康を支える」に着目し、地域での活動も増やしていくため。また、病院を退院したこどもたちの地域における支援の場への理解、発達支援における看護師の役割への学びを深めることが目的です。

○具体的な内容

<ボランティア活動開始に向けて>

- ①活動するにあたっては、当クラブ「こどもボランティア つなぐ」に所属します。
- ②初回活動時には、「いこいの家」のボランティア担当の方からオリエンテーションを受けます。授業がない時間や夏休みなどの長期休暇を利用して、ボランティア活動日を計画します。

<ボランティア活動>

- ①自らの活動希望日を先方に伝え調整します。
- ②当日は職員の指示に従い、こどもへの支援を行います。

<実際の活動例>

- ・朝の会への参加
- ・トイレ行動の支援
- ・プールのお手伝い（夏季）
- ・給食時の食事支援

<現在までの活動経緯>

2023年夏季休暇中に、オリエンテーションを受けた学生3名が、それぞれ4～6日間の活動をしています。

○期待される効果

1「挑戦できる」ということです。普通の保育園とは違い、障がい児がいる施設ということで躊躇しました。しかし、実際には、注意する点が多いものの、こどもへの接し方は他の保育園と一緒です。この経験を通して、自分の知らない世界に一步踏み出すことは緊張するけれどそれ以上に得るものが多いと感じました。

2「こどもから学ぶ」ということです。言葉を自分が思うように表わせないこどもがいますが、意思表示、愛情表現をその子なりに一生懸命伝えてくれます。また、昨日できなかったことが今日ではできるというように成長がみられ、こどもの姿から学ぶものがたくさんあります。

3「支援を必要とするこどもについて知ることができる」ということです。自閉症のこどもは初めて会った時にはすごく警戒心があり、自分のしたいことやご飯を食べる時のこだわりが強く、言葉の発達が少し遅れています。こどもの特性を知り個別に合わせた接し方やサポートの仕方があること、できそうなことはこども自身で行えるように促し、どうしてもできない時だけ手伝うなどの関わり方を学ぶことができます。



連携先：

静岡市心身障害児福祉センター
いこいの家

学生名 : 高山理子、松本真奈、鈴木ふみ
健康科学部看護学科2年
指導教員: 木田文子
健康科学部看護学科講師

こどもボランティアつなぐ 活動を病院から地域へ

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



キーワード

ボランティア活動, こども, 地域貢献

○取り組んだきっかけ

病棟ボランティアを始めるようになったきっかけは、外来でのクリスマスや七夕のイベントのお手伝いを行っていた時期のことです。「病院＝怖い」という認識を持つこどもがいるため、診察や検査を受けに来るこどもに対して、少しでも明るい気持ちで来院できるようにと思い、活動していました。活動しながら、病棟で入院し治療を受けているこどもはどのような生活を送っているのか気になりました。看護学生として何かサポートできないかと考えたことがきっかけです。

○活動の目的

家族や友達と離れて治療に専念するこどもに対して、病院内での生活による緊張感を和らげたり、自宅と同じような雰囲気作りや気分転換になるような遊びの場を提供することが目的です。

○具体的な内容

<ボランティア活動開始に向けて>

- ①活動するにあたっては当クラブ「こどもボランティアつなぐ」に所属します。
- ②初回活動時には、病院ボランティアコーディネーターの方からオリエンテーションを受けます。

<ボランティア活動>

- ・月に1~2回、各病棟の保育士の方とともに入院しているこどもに遊びを提供しています。
- ・こどもの年齢や成長発達に合わせて、積み木、色塗り、パズルなど、様々な遊びを一緒に行っています。
- ・1対1でこどもと関わることもあれば複数のこどもと関わり、みんなで一緒に楽しく遊んだりします。

○期待される効果

- 1「こどもが、病院で成長発達を妨げることなく治療を受け続けられるように手助けができる」

こどもの発達段階によって、遊びの内容を考えると、子どもが楽しいと思えるような工夫をすることができるようになります。病棟保育士の方が治療を受ける前後にどのような関わりをしているのか実際に近くで見ることによって、治療を受け続けられるための支援を学ぶことができます。

- 2「こどもに寄り添った関わり方を学ぶことができる」

こどもへの話しかけ方、今どう思っているのか、言葉で会話をするだけでなく、一緒に時間を過ごすことによって、多くのことが見えてくるようになります。活動の回数が増えると、こどもの成長を感じます。遊びの様子をご家族に伝えると喜んで頂けることもあり、こどもだけでなくご家族のための活動でもあると思えることがあります。



学生名 : 望月彩衣、有田乙幾
大木綺乃、加納早久良、庄司百花
健康科学部看護学科3年
指導教員: 木田文子
健康科学部看護学科講師

連携先:

静岡県立こども病院